

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園 グループホーム ほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成27年2月7日	評価結果確定日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H26年8月で開所5年目を迎える事ができました。自然に囲まれ四季を感じながら、家庭的な雰囲気を作り心を掛け、園の基本理念”ご利用者様本位の介護”と、各ユニットで掲げた理念を基に、日々の介護の実践をしています。母体に特別養護老人ホームがあり状態を見ながら、又、かかりつけ医師との連携を取りながら健康管理を行い、ご利用者が安全・安心して生活していただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年1月、法人の理念や提供しているサービス内容・特徴を明記した広報紙を創刊し、村の協力で全戸に配布している。小学生の伝統芸能の和太鼓演奏の訪問を受けたり、毎月民生委員が交代で訪問したり、恒例となった保育園児のお遊戯の見学も継続している。今年度も、各ユニット毎に年間目標や月間目標を掲げ、入居者だけでなく職員も体調管理に努めながら、笑顔で多くの優しい言葉かけ、気づきや思いやりのあるケアの実践に努めている。頻回にトイレに行く入居者が、集中できることやその時間帯について職員間で情報交換しながら、モニタリングの実施や計画の見直しをしている。入居者と家族が良好な関係を取り戻せるように支援したり、昨年は初めて看取りを支援し、職員は主に排泄の支援で、家族が中心となった看取りだったと管理者は話しているが、告別式ではホームへの謝辞が述べられた。今後も地域の拠り所として期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **星グループ/星寿園GHほしのさと**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の介護に対する思いを書いて出し合い、職員で話し合って決めた理念を基に、理念に沿った介護を心掛けている。	今年度も法人理念を実践するために、各ユニット毎に年間目標を事務室の壁に掲載している。月間目標も設定され、先月に引き続き体調管理を掲げ、入居者だけではなく職員も体調管理に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育園児さんのお遊戯の見学招待や、慰問が行われている。又、民生委員さんに毎月来て交代で来て頂き、交流をしている。	先日は山間留学生も参加した小学校の伝統芸能の和太鼓演奏の訪問は入居者に好評であった。明日は隣接する母体介護施設のデイサービスで恒例となった保育園児のお遊戯を見学する予定である。民生委員の訪問もあり、交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ご利用者の状況報告や、ひやり・ハットと報告を通して、認知症について理解して頂く様に呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、行政、、区長、民生委員、ご家族から出た意見や、要望等は、職員に伝えている。	会議内容を全家族に送付し、会議への参加を呼びかけている。家族1名の参加はあるが、今後できるだけ多くの家族に参加していただけるような工夫を検討している。会議ではヒヤリハットや事故の経緯を説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事があれば、行政の係に直接尋ねたり、運営推進会議に出席して頂き、状況を把握して頂けるように努めている。又、地域密着型サービス連絡会議に出席している。	今年1月、法人の理念や提供しているサービス内容や特徴を明記した広報紙を創刊し、村の協力で全戸に配布された。日頃は、居室の空き情報を提供したり、市介護長寿課主催の地域密着型サービス会議に参加し、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、自由に出入りできる様にしている。又、薬の抑制や、身体抑制は行っておらず身体拘束の勉強会や報告で、知識を得ている。	毎年、隣接する系列施設で法人主催の人権研修が開催され、職員が参加している。ホームでは頻回にトイレに行く入居者があり、「今行ったのに」と制止するのではなく、どのような声かけが適切かを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内勉強等で、高齢者虐待防止法等を学ぶ機会がある。虐待防止に努める為、虐待防止についてのチェックシートを今後定期的に職員に行っていく計画がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている利用者はいない。毎年、地域包括主催の高齢者権擁護の勉強会がある為、来年度は参加し、事業所内で学ぶ機会を作りたい。	以前家庭裁判所に情報を提供した入居者は財産を管理する親族が交代したりしているが、制度活用には至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込みの際に施設内を見学して頂き説明している。又、入所時に詳しく説明を行いながら、ご家族に納得して頂いてから同意の署名を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヵ月に1度の運営推進会議を開催し、地域の方と意見交換を行っている。面会時や介護保険更新の際には、ご家族に意見や要望等伺い、プランにも反映させる様心掛けています。	担当職員が毎月利用料請求書と入居者の写真や暮らしぶりを送付しているが、ホームだよりの発行がないことを淋しがる家族もある。今年の夕涼み会は、4名の家族がおにぎり作りを手伝ったり、家族同士が交流する機会にもなっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスは行っているが、参加者が不十分な事があり、十分な話し合いができていないかは疑問。	合同カンファレンス後に各ユニットのカンファレンスを開いている。参加できない職員には、朝の申し送り等で情報を共有している。法人担当者との個人面談や、近々食事づくり担当職員の雇用日数が増えるなど、要望を伝える体制づくりがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行っている。又、施設長は個別に聞き取りやを行う等、職員の意見を聞く機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に関して、差別的な事はないと思うが、職員に対しての個々の指導は足りないと感じる。	介護人材の確保が難しい現状の中、地域関係機関が主催している研修会に管理者が参加し、ロコミで採用した職員もいる。事務職として法人で採用され、現在はホームに就労している職員もあり、法人として資格取得を推奨している。休憩室の整備もあり、交代で休憩したり、希望休を相互に譲り合っているが、人員基準でのシフトのため、全職員が体調管理に留意している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	園内勉強会で、倫理や個人情報保護について学ぶ機会を設けている為、勉強会への参加の声掛けをしている。	市主催の人権研修に管理者が参加したり、法人全体でも人権研修を実施し、職員が参加している。入居者への言葉かけに留意するように、日頃から話し合いを重ね、立ち上がる行為には、まず意向を聞く対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内勉強会や外部を交えた勉強会の開催の参加を促し、参加できなかった職員には、持ち帰った資料にて情報の共有を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH部会や他施設の職員との勉強会を通し、介護の在り方や情報の交換を行う様に働きかけている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が、入居前にご本人と面談し、困っている事や不安、要望等を聞き取りプランに織り込み作成を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時や入居前にご家族から、困られている事や要望等をお聞きした事を織り込みプラン作成を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のご要望をお聞きし必要なサービスの提供が出来る様に努めている。又、必要に応じ他事業所の紹介も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能が低下しない様、可能な事は、(食材の皮むき、掃除、洗濯物干し、たたみ、買い物等)職員と一緒に作業している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお話したり、毎月担当が様子を手紙で(一筆箋)お知らせしたり、必要に応じ電話連絡を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や季節行事、買い物等外出支援を行い、参加促している。馴染みの美容室への外出支援も行っている。	寒い折の地域行事は今年車の中から見学している。系列デイサービスからの入居もあり、保育園児によるお遊戯会の見学では、「おひさしぶり」の声が上がったりしている。陰湿な関係からゆったりとした関係になった家族もあり、良好な関係づくりの仲介役を務めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日を皆でお祝いしたり、支援のお手伝いをお願いする等、関わり合い、支え合う支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、面会に行ったり、声掛け行ったりしている。又、ご家族から相談があれば支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の行動や言動の変化に気付き、把握に努めている。又、申し送りやご利用者ノート等で、情報の共有も行っている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居者のできることやできないことを整理している。ケア会議や申し送りで、情報を共有し、その時々での思いや意向の把握に努めている。	失認や失行が多くなりつつある入居者をその都度アセスメントし、評価的理解から、分析的理解、共感的理解で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行ない、入居後も一人一人に不安が無い生活に必要な情報を収集し、サービス利用につなげていける様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝夕バイタルチェックを行い様子観察を行っている。又、定期的に正看護師によるチェックも行っていて、心身の状態の変化、体調の変化に気付いた時は記録を残し、申し送りやノート等で情報の共有、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き、各担当より担当ご利用者の状況や様子を報告し、対応策等話し合っている。又、ご家族のご意向も伺いながらプラン作成につなげている。	頻回にトイレに行くが、ポータブルトイレの使い方、排泄後の後始末が認知できなくなりつつある入居者が、集中できることは何かや時間帯はいつかを職員間で情報交換しながら、モニタリングを実施し、計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌や申し送りで、情報収集ができ、情報の共有もできている為、排泄等プランの見直しができている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を聞き、できる限り、個々にその時生じた事柄を、臨機応変対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内の民生委員の方々に、毎月交代で慰問していただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の受診が必要な時は、ご家族に意向を伺ってから、主治医に紹介状を書いて頂き、受診、通院をおこなっている。	肩関節の腫脹や熱感があり、主治医の紹介状を持参して、専門医療機関を受診したり、専門医の診断を受けて主治医が処置をされたりしている。胃瘻を造設した入居者もPEGの交換のため、主治医を受診している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を受け、必要であれば受診を行い、その後の結果や治療方針等、申し送りノートに記載し、職員が統一した支援が出来るようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、退院時は関係者より、電話やサマリー等で情報を得ている。又、入院中は面会に行き、ご利用者の経過等、身体状況の把握に努める。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方が、ご家族と事業所の間で食い違い生じないように、主治医、ご家族、事業所で話し合いを行う様にしている。	昨年11月ホームで看取りを支援した。訪問看護に関わっている有資格者の家族が中心になって、家族が交代で居室に泊まり、職員は主に排泄を支援したと管理者は話すが、葬儀では謝辞が述べられている。看取りマニュアルを整備し、担当者会議で家族の意向を確認し、看取り計画書に沿った支援を実践している。	貴重な体験を全職員で振り返り、運営推進会議等で、訪問看護に関わっておられる当該家族に体験を語ってもらうなどで、ホームの看取りの取り組みを周知する機会とされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成されている。全ての職員の定期的な訓練までには至っていないが、応急救護の研修を受けた職員が、AEDの使い方等伝える機会を設けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、年2回の火災避難訓練（日勤帯・夜勤帯）を消防署立会いの下実施し、内1回は地元消防団の方にも参加頂く。災害時には、併設の施設との連絡体制を敷いている。	消防署や分団長の協力を得て、避難訓練を実施している。消防車が3分で駆けつけられる距離にあり、消防車が到着したらホーム内に立ち入らないように指導があった。村全戸に緊急情報を流すラジオが設置され、定時放送が行われている。水や食材等の備蓄は法人が確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった時間を過ごして頂いている。レクや行事等も強制せず、その方を尊重し、その方にあった時間を過ごして頂き、言葉掛けにも気を付けている。	各ユニットの目標に掲げた笑顔で多くの優しい言葉かけ、気づきや思いやりのあるケアの実践に努めている。職員の「〇〇さん、食器拭きをお願いします」に、入居者の「いいよ」の会話から、入居者の誇りを大切に支援を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけず、強制等も行わず、何でも尋ねて自己決定、判断をして頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の判断で、居室で過ごされたい時は居室で、ホールで過ごされたい時はホールで、といった感じで、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月事業所内で、カットサービスを受ける事ができ、毎日髭剃り等の支援行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや、食器、お盆拭き等と一緒にいたり、誕生日の日には、ご本人の好みの物をメニューに入れる等の工夫をしている。	視力障害のある入居者に献立内容を説明しながら、その人のペースに応じた食事介助をしたり、出された食事を全て混ぜる入居者に、一皿ずつ食べられるように一皿が食べ終わったら、次を出す支援でほぼ完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥やキザミ等その方に合わせた形態で摂取して頂いている。栄養バランスにおいては、併設の施設の管理栄養士に見てもらう事が可能である。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で歯磨き出来る方はご自分でして頂くが、定期的に夜間預かり、洗浄液に漬けたり、義歯の方は義歯洗浄の支援を行い、口腔ケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導行いトイレでの排泄行っている。又、パットチェック行い、汚染時には随時パット交換行っている。	失認や失行が始まった入居者は、排泄の一連の動作を細かくアセスメントし、トイレで排泄できるように支援したり、自室のポータブルトイレの夜間の使用が困難になりつつあり、今後の対応を検討している。トイレでの排泄を2人体制で支援する入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入行い、必要に応じ下剤服用で、コントロール行っている。又、ほぼ毎日牛乳を飲用したり、棟内を廻る等運動も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がなければ、週2回の入浴実施を行っているが、便汚染等が生じた場合はその限りではなく、随時入浴はできる。	「娘さんからきれいにしてほしいと頼まれた」を口実に入浴を支援する入居者もある。日中傾眠傾向の入居者も、しっかり覚醒してもらって入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールソファや居室において、いつでも休息できる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の説明書のファイルを、誰でもすぐに見られる様に、事務所の中に置いている。又、状況に応じ服用の中止や減量で対応行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食器拭きや食材の皮むき等、昔されていた事の手伝いをして頂いている。色塗りの好きな方には色塗りのコピー等ぼんやりと過ごされたい様に工夫している。ご自分で自由学習(計算問題、迷路、点つなぎ)もされてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員の人数が限られている為、なかなか希望に沿っての外出はできていないが、天気の良い日には戸外に出たり、ドライブ外出行っている。ご家族が自宅に連れて帰られる事もある。	ホームは高台に開所し、周囲の景観も素晴らしく、気候の良い時は散歩をしたり、近隣にある地域交流室で行われる県対抗和太鼓競技会の見学に出かけたりしている。帰宅願望の強い入居者も家族の理解で良好な関係を取り戻し、一緒にドライブに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由にお話しされてある。お届け物のお礼のお手紙を書いて頂く支援を行った。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感感じて頂ける様に、花を飾ったり壁面のレイアウトを時にはご利用者と一緒にやっている。	玄関に飾られたお雛様が訪問者を出迎えてくれる。玄関の奥に事務室、左右にユニットが開所している。職員が素足で就労するほど、汚れたカーペットは取り外しができ、こまめに掃除が行われている。健康管理を月間目標に掲げ、加湿器を設置したり、廊下に濡れたタオルをかけている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにある椅子・テーブルやソファで、気の合う方とお話しされたり、一人ゆっくりとくつろいで頂ける様に配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご利用者やご家族が持ち込まれた物を置いて頂き、馴染みの物を使って頂いている。居室出入口ドアには名前を大きく書いた紙を貼り、わかりやすくしている。	居室を間違える入居者の居室入口には大きく、氏名が掲示されている。加湿器を設置した居室も多く、胃瘻を造設した入居者は自発的な体動もないため、目を開けた時見えるようにと家族が天井や壁にお花の貼り絵をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、手摺りや支援バーを取付けたり、夜間居室内でのポータブルトイレ使用の為設置を行っている。又、トイレがわかる様に大きく場所を記している。		